

14:25 さて、大ぜいの群衆が、イエスと  
いっしょに歩いていたが、イエスは彼らの方  
に向けて言われた。

14:26 「わたしのもとに来て、自分の父、母、  
妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのち  
までも憎まない者は、わたしの弟子になるこ  
とができません。

14:27 自分の十字架を負ってわたしについて  
来ない者は、わたしの弟子になることはでき  
ません。

14:28 塔を築こうとするとき、まずすわって、  
完成に十分な金があるかどうか、その費用を  
計算しない者が、あなたがたのうちにひとり  
でもあるでしょうか。

14:29 基礎を築いただけで完成できなかつた  
ら、見ていた人はみな彼をあざ笑って、

14:30 『この人は、建て始めはしたものの、  
完成できなかつた。』と言うでしょう。

14:31 また、どんな王でも、ほかの王と戦い  
を交えようとするときは、二万人を引き連れ  
て向かって来る敵を、一万人で迎え撃つこと  
ができるかどうかを、まずすわって、考えず  
にいられましょうか。

14:32 もし見込みがなければ、敵がまだ遠く  
に離れている間に、使者を送って講和を求め  
るでしょう。

14:33 そういうわけで、あなたがたはだれで  
も、自分の財産全部を捨てないでは、わたし  
の弟子になることはできません。

14:34 ですから、塩は良いものですが、もし  
その塩が塩けをなくしたら、何によってそれ  
に味をつけるのでしょうか。

14:35 土地にも肥やしにも役立たず、外に投

げ捨てられてしまいます。聞く耳のある人  
は聞きなさい。」

からし種のたとえのように、信仰というのは”あ  
るか”または”ないか”です。救いと滅びに中間  
がないように、神とサタンにその中間がないよう  
に…です。ですから信じた者の生き方も、神に従  
うか従わないか…そのどちらからかなのです。

生きている者には成長があるので、その過程を  
見ると中間があるように思えるかもしれませんが、  
それは違います。神とサタン、または信仰と不信  
仰、救いと滅びの中間にいないということはないの  
です。私たちは、神に信仰しそして救いにいるの  
です。

ですから救われた者は、主の弟子になって主の  
ために生きるか、それとも主に従わないで主の邪  
魔をして生きるか、そのどちらからかなのです。実  
際使徒の働きでは、ほとんどがクリスチャンとは  
書かれずに「弟子」と書かれています。

「弟子」としての歩みをするなら訓練や成長が  
必要です。それはこの世を生きるための力です  
から、良いことなのです。生き抜く力なしに、”自  
分は楽がいいから”と「計算」も「考え」もなし  
にいたら、その人の人生は弱く危うく苦しまの  
多いものになるでしょう。

一方イエス様の「弟子」になるなら、主の使命  
と計画を成し遂げる力にあふれ、そのために必要  
と恵が与えられ、主の愛に中に満たされて生きる  
ことができるのです。

どちらが良いでしょうか。地上の限りある生涯  
において、自分はどちらを選ぶのか、それを決断  
するときが必要です。「塩け」のある者になりま  
しょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願  
いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなた  
の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

